

目次

田上時子のエッセイ 若年層の働き方をどう支える？	1
特集 アンディ・ヒクソンさんの 非暴力アクション・ワークショップ ファシリテーター養成講座 全課程修了	2~3
バーバラ・ベインさんの サークルズで境界線を学ぶ	4~5
活動報告 連続講座への講師派遣	5
リレーエッセイ 志和佐智子/村上良江	6
講座インフォメーション	7
会員の紹介・入会のおさそい	8
編集後記	8

田上時子のエッセイ

若年層の働き方をどう支える？

2月初旬のNHKスペシャルで「フリーター漂流〜モノ作りの現場で〜」を見た。内容は日本のモノ作りの現状は大きく様変わりをしており、ほとんどのメーカーがフリーターと呼ばれる短期雇用の若者を活用しているという。全国の製造業で働くフリーターの数に100万人を超えるという。フリーターを雇用するのは製造業ではなく請負会社という企業で、メーカーから仕事を請け負い、必要な数のフリーターを工場へ送る。ある請負会社は全国に200箇所の面接会場を持ち、毎月1,200社の工場へ6,000人のフリーターを送り込んでいるという。正社員の採用を手控える企業と職を求めるフリーター。間を繋ぐのが請負会社で、業界大手に急成長しているという。フリーターの人件費は正社員の半分。単純作業のみ。経験や学歴は一切問われない。暗澹たる思いで見た。

2004年11月の15~24歳の失業率が8.2%、25~34歳は5.1%。全体の完全失業率の4.4%を超える。フリーターは今年460万人に達するという研究機関の予測もある。専業主婦と学生を除く15~34歳の人口の3割にあたる。

一方、同月末にNHK「クローズアップ現代」で

は「就職戦線 企業と学生」が放映された。これからの10年間で各企業は、1947-49年生まれの「団塊の世代」が定年退職するという環境にさらされる。就職戦線は売り手市場であるという。優秀な人材を確保するためにアノ手コノ手で学生にアピールする企業が紹介されていた。こちらは少し明るい気分で見えた。

今春卒業する高校3年生の就職内定率(昨年12月現在)が73.4%と、前年同期から5.4ポイント上がり、4年ぶりに70%を超えたことが文部科学省の調査でも分かっている。

しかし、いずれにしてもこうやって「勝ち組」と「負け組」観がメディアによって助長され、若年層の働き方も二分化される。今、社会にとって重要なのは、若年層を支える大人に求められる知恵とは何なのか、と考えることではないかと、わたしは思う。

わたしは個人的には「職業に貴賤の別なし」と思っているし、全員がエリートサラリーマンでは困るのではないかと。おいしいたこ焼きを作ってくれる人も家の修理をしてくれる人も、そして我がNPOを後継してくれる若者もいてくれなくては、豊かで創造的な社会は作れないと考えている。

